

平成 29 年度 夏の企画展

戦傷病者の^{いたみ}労苦のそばで

- “白衣の天使” と呼ばれた従軍看護婦たち -

開催趣旨

先の大戦では、戦傷病者の救護・看護にあたり、様々な戦争体験をした従軍看護婦たちがいました。彼女たちは、一旦戦時となれば兵士と同様に召集され、戦地や内地(日本国内)の陸海軍病院、また病院船において救護・看護活動に励みました。

彼女たちの献身的な活動により多くの人々の命が救われましたが、戦地に送られた看護婦の多くは、極度の医薬品不足などで満足に活動できない状況に苦しむとともに、伝染病や空爆など、自身の命を危険にさらしての活動を行わなければなりません。さらに、沖縄では看護婦の資格もない女学生たちが、従軍看護隊として動員され、「ひめゆり学徒隊」のように戦場で命を落とすこともありました。また、外地(日本国外)で終戦を知ったその後も、連合軍の下で看護婦として働き、日本への帰国が終戦から数年経った後だったという体験をされた方もいました。

従軍看護婦たちは、多くの写真資料に戦傷病者と共に白衣で写る姿をみることができ、また、戦傷病者の中には療養中に出会った看護婦と結婚した人もいるなど、戦傷病者とは切っても切り離せない存在でした。

本展では、元従軍看護婦の方から寄贈された資料や、戦傷病者がみた彼女たちの姿を伝える資料、そして個々の体験をもとに、「白衣の天使」と呼ばれた女性たちが従軍看護婦として戦傷病者と共に戦中・戦後に刻んだ歩みをみていきます。

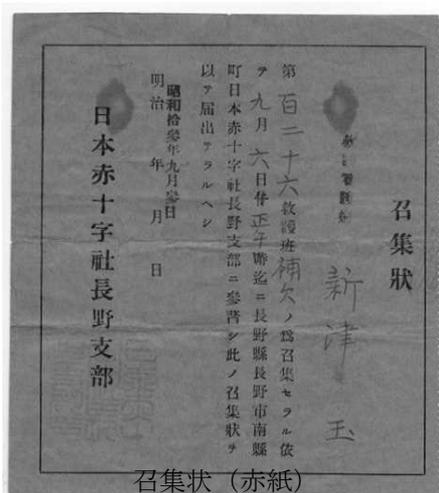
主	催	： しょうけい館（戦傷病者史料館）		
会	期	： 平成 29（2017）年 7 月 19 日（水）～9 月 10 日（日）		
会	場	： しょうけい館 1 階		
入	場	料	： 無料	
開	館	時	間	： 10：00～17：30（入館は 17：00 まで）
休	館	日	： 毎週月曜日（祝日は開館・翌平日閉館）	
内	覧	会	： 平成 29（2017）年 7 月 19 日（水）10：00～12：00	

展示構成

1. 従軍看護婦とは

従軍看護婦のほとんどは、日本赤十字社で学び働いていた救護看護婦たちでしたが、他にも陸海軍に雇用された看護婦や、沖縄戦において学徒看護隊として動員された女学生たちもいました。そして、当時は、戦傷病者を助ける従軍看護婦がポスターなどに凛々しく描かれたり、新聞や雑誌に「白衣の天使」として取り上げられたりするなど、女性たちの憧れの存在として位置付けることで、国・社会全体がより多くの従軍看護婦を増やそうとする時代となっていました。

このコーナーでは、どのようにして従軍看護婦が生まれたのか、彼女たちがどこで、どのような活動をしていたのかを解説します。



召集状 (赤紙)



従軍看護婦用手提げカバン



衛生兵や傷病兵と共に写る従軍看護婦



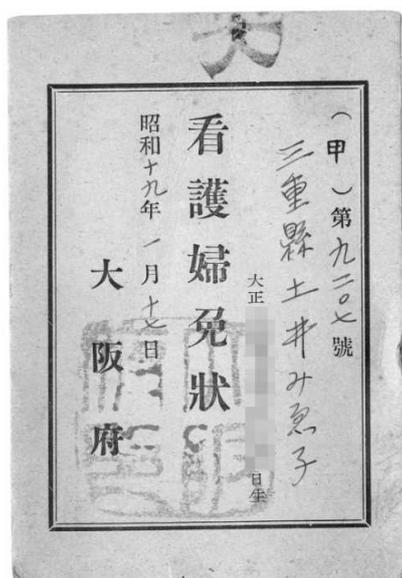
戦傷病者のスケッチ

[昭和 19 年 マニラ岸壁 日本従軍看護婦]

2. 従軍看護婦の証言

しょうけい館が収録してきた証言映像の中から、6人の元従軍看護婦の証言と彼女たちの資料を紹介します。

	証言者	証言映像タイトル
1	北城 良子	ひめゆりの悲劇
2	出口 外枝 (元日赤救護看護婦)	かけがえのないはらから(同胞)とともに
3	萩森 敏子 (元日赤救護看護婦)	看護ひとすじ ～フィリピンで終戦を迎えた救護看護婦～
4	水野 みゑ子 (元陸軍看護婦)	陸軍看護婦に志願して
5	桜井 政子 (元日赤救護看護婦)	南方の戦火をくぐった救護看護婦
6	太田 澄子 (元日赤救護看護婦)	救護看護婦そして妻として生きた全力の人生



看護婦免状



陸軍病院配属時の制服

関連イベント

講演会

「元従軍看護婦の戦争体験講話」

内容：戦時救護、戦傷病者との思い出などを元従軍看護婦の方にお話いただきます。

講話者：桜井政子さん（元日本赤十字救護看護婦）

※講話者の都合により当日中止する場合には、学芸員による展示解説に変更となります。

日時：8月26日（土）14：00～15：00

その他：当日参加可能ですが、席に限りがありますので（約30名）、参加ご希望の方は当館まで一度ご連絡ください。

証言映像上映

内容：元従軍看護婦たちの証言上映

日時：会期中毎日 10：00～17：00

場所：しょうけい館1階証言映像シアター

その他：鑑賞自由・無料

フロアレクチャー

内容：学芸員が企画展の展示解説をします。

日時：7/29（土）、8/12（土）、9/9（土）14：00～14：30

場所：しょうけい館1階

その他：当日参加自由・無料

